

授業科目	日本経済入門					実務家教員担当科目	-		
単位	2	履修	選択	開講年次	1	開講時期	前期		
担当教員	池口 功晃								
授業概要	私たちの暮らしと密接な関わりをもつ経済について、第1回～第9回まで経済学（マクロ経済学）の基礎知識を習得し、第10回以降は高度経済成長期以後の日本経済の主要な論点を学びます。								
授業形態	対面授業（一部オンデマンド）				授業方法	-			
学生が達成すべき行動目標									
標準的レベル	1. インフレやデフレ・消費税・プライマリーバランスなど新聞記事に登場する経済用語の意味を理解し、それを自ら説明することができる。 2. 経済用語を使って経済のメカニズムを自ら考えることができる。 経済用語を理解し、経済の仕組みについても自らの言葉で説明できるようになる。								
理想的レベル	日本経済新聞などのさまざまな経済記事を理解できるようになる。								
評価方法・評価割合									
評価方法			評価割合（数値）				備考		
試験									
小テスト			50						
レポート			50						
発表（口頭、プレゼンテーション）									
レポート外の提出物									
その他									
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング									
DP1	○	DP2	-	DP3	○	DP4	-	ナンバリング	-
学習課題（予習・復習）									1回の目安時間（時間）
復習									4
授業計画									
第1回	授業ガイダンス、経済学の全体像								
第2回	経済及び経済成長とは何か（オンデマンド授業）								
第3回	生産と消費								
第4回	利子率と投資								
第5回	政府・中央銀行の役割、経済と株価の関係（オンデマンド授業）								
第6回	金利と株価の関係、為替レート、物価と失業率								
第7回	閉鎖マクロ経済モデル（IS バランス、プライマリーバランス）								
第8回	閉鎖マクロ経済モデル（財政政策、金融政策）								
第9回	開放マクロ経済モデル（貿易、IS バランス式）								
第10回	占領・復興期の日本経済								
第11回	高度経済成長期の日本								

第 12 回	石油ショック～プラザ合意～日米構造協議
第 13 回	バブル経済の発生と崩壊
第 14 回	わが国の社会保障制度
第 15 回	総まとめ
テキスト	釣雅雄（2014）『入門 日本経済論』 新世社 神樹兵輔（2014）『最新 日本経済キーワード』 高橋書店
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	小テストは採点后、返却する。
課題に対するフィードバックの方法	日頃から経済のニュースなどに耳を傾けるように心掛けてください。 基礎的な経済用語の知識の習得は就職活動において必須ですので積極的に授業に参加してください。
学生へのメッセージ・コメント	